

障害児教育分野における青年海外協力隊派遣現職教員サポート体制の構築

筑波大学特別支援教育研究センター

前川 久男

1. 事業の目的・方法

- (1)「特別支援教育ブログ」(<http://initiative.jstblog.jp/blog/>)を開設し、派遣隊員と国内の専門家(サポートパートナー)及び経験を共有したり助言を提供したりできる帰国隊員が参加するネットワークを構築する。
- (2)集団授業を基盤とすることの多い任国の特別支援教育で、逸脱や行動問題などにより教育上の困難を持ちやすいと考えられる自閉症教育に関する、DVD 教材を作成し、隊員の自学教材及び任国の研修教材のもととなるものをつくる。
- (3)基本的な障害理解、授業づくりなどのパワーポイント教材、指導に使用する教材と適用などの素材集を作成する。
- (4)任国のスタッフとの協働や相互研修を可能とするために、研修教材やワークショップ開催などの手続きを解説した教材等を作成する。

2. 今年度の活動・成果

- (1)現在、ブログを開設し、隊員のユーザー登録を、JICAを通じて進めている。各国で活躍する隊員からの資料提供の依頼を受けて、ブログ上でダウンロードできるようにし、派遣前・中の隊員が情報収集等をする。また、現地活動に関して、質問したり助言を求めたり、授業計画の協議や教材の紹介などをする。

また、筑波大学特別支援教育研究センターでは、複数の人々が参加できる簡便なインターネットテレビ会議システムを有しており、指導困難ケースのケースカンファレンス等、リアルタイムのディスカッションを要する場合には、日程を調整してテレビ会議を開催することも可能。

帰国後の隊員は、同様に質問することができる一方、現地隊員の活動に対し経験者の立場から助言することもでき、現在活動されている隊員の方々にとって、先輩の隊員が任国で経験してきたことを共有することは、極めて重要なサポートとなるとと思われる。

- (2)素材集作成について、筑波大学附属特別支援学校(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由自閉症)5校で、作成にあたっている。自閉症に関わる自学教材及び、理解啓発ビデオの編集を行っている。

3. 最終成果物に向けた進捗状況

素材集等進捗中の成果物とともに、昨年度より継続して、マレーシアの隊員と協力した巡回相談を1月中に実施する予定である。また、今後の隊員サポートの在り方に関して、これまでの事業実施の評価と帰国隊員の知見を共有し、派遣国の自立的な障害児教育の発展に資すると考えられる、専門家養成や隊員のチームアプローチ等の方向性を確認したい。そのために、帰国隊員の参加状況と等を考慮して、事業報告会及びシンポジウムを3月に実施する予定である。